

## インターネットサービスを利用した他職種連携

タイヘイ薬局メディカルモールおぎ店  
薬剤師 笹野寿基

### 【はじめに】

我が国は超高齢社会をむかえるにあたり、地域・包括ケアシステムという、医療と介護のコンビネーションを一層推進している。つまり、医療は病院で治す医療である「病院完結型」から地域全体で治し支える「地域完結型」の在宅医療を提供できる体制の構築を計画している。この在宅医療を行うにあたり、我々薬剤師以外に医師や看護師、ケアマネージャーなど様々な職種が関与している。これらの職種がそれぞれの知識・技能を活かし、患者に適切な医療・介護を提供するためにも、相互に連携し情報を共有することが重要となってくる。

### 【方法】

当薬局で関わる在宅患者において、インターネット上のクラウドサービスを利用し、他職種との連携を図っている。掲示板への書き込みをもとに、看護師が測定したバイタルの状態や医師の診察、処方意図などを把握し、薬学管理に役立てている。また、薬剤師から、服薬の状況や残薬の状況、副作用などの気になる点を報告しディスカッションを行っている。

### 【結果・考察】

電話やFAXなどでは知りえなかった細かな内容まで他職種と情報を共有することができ、患者により深く関わるできるようになった。医師の処方意図の理解により指導もスムーズになり、患者の安心感にもつながっていると感じる。さらに、医療関係者だけでなく、患者の家族の方が参加している例もある。家族の希望や気になることに対し、関係者全員がその問題に取り組めるよう関わっている。このシステムの利用により、勤務時間以外にも患者の新たな情報を知ることができ、情報を伝える側も気軽に些細なことまで伝えることが可能になった。しかし、このシステムも情報提供の手段の一つであることを忘れてはならず、他職種連携を行う上で、適切な時に適切な方法で連携をとり、患者へ適切な医療を提供していかなくてはならない。また、コミュニケーションの基本は顔のわかる関係の上で成り立っていることも忘れてはいけない。